

コツノアリ

Oligomyrmex yamatonis Terayama
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での既知産地は1か所に局限され、コロニーの規模も小さいため、絶滅の恐れは非常に高まっていると判断。今回の調査では生息を確認できていない。

種の特徴

体長は兵アリで2mm、働きアリで1mm。体色は赤褐色で、兵アリでは頭部はより暗色。頭頂部に明瞭な1対の突起を持ち、頭部後縁中央は強くへこむ。照葉樹林に生息し、石下、腐朽木中、土中等に巣を作る。

分 布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では敦賀市杉津でのみ確認されている。生息地でのコロニーの規模も小さい。今回の調査では確認されておらず、1994年以来記録はない。

生息を脅かす要因

小道路肩等を生息場所としているため、車寄せによる営巣地の破壊等が存続をおびやかす。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日本産アリ類データベースグループ（2003）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

ツノアカヤマアリ

Formica fukaii Wheeler
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

既知産地である池田町冠山の生息地は破壊されてしまった。県内では危機的状況にあると判断される。本県のほか、岡山県でも減少が報告されている。

種の特徴

体長4.5～6.5mm。体色は、頭部、胸部、腹柄部は赤褐色が基調で、頭部、胸部背面はやや暗褐色。頭楯後縁が窪むのが特徴。山地に生息し、ふつう単独で営巣するが、クロヤマアリやヤマクロヤマアリに一時的に寄生する。小規模の塚を枯草で作る。

分 布

北海道、本州（広島県、鳥取県以北）に分布し、赤色型のヤマアリの中では最も西方まで分布を広げている。県内では池田町冠山で記録があるのみだが、この生息地は消失した。

生息を脅かす要因

県内の生息地は、よく整備された登山道に沿って広がっていた。林道等の大規模な補修、舗装により、既知の生息地は消失してしまった。本県での新たな生息地の確認を含め、県内の分布状況の再調査が必要である。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日本産アリ類データベースグループ（2003）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○								

アケボノクモバチ

Anoplius eous Yasumatsu
ハチ目・クモバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内で知られている生息地は1か所のみであり、今回、その生息地で精力的に調査されたにもかかわらず確認されなかったことから、本県での生息は危機的な状況にあると判断した。

種の特徴

体長10～20mm。黒色で頭・胸部および腹背第2～4節基部に灰白色微毛による斑紋あるいは帯状紋がある。翅は基部3分の1を除き暗色。河川・湿地や池沼等水辺に生息し、ハシリグモやコモリグモを追って水上を滑走する。土中や朽木の中に営巣する。

分 布

本州（中部以西）、九州、対馬に分布。県内では敦賀市中池見湿地で生息記録があるのみ。今回の調査では確認できず、1992年の記録を最後に生息確認ができていない。

生息を脅かす要因

本種は水辺の朽木や土の中に巣を作るので、池沼環境が改変されると生息できなくなる。開発等による湿地、池沼の環境改変のほか、遷移の進行による湿地環境の変化等が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、羽田ら（2006）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											